



株式会社文化時報社
発行所・〒600-8243
京都市下京区猪熊通り堀小路下ル
電話(075)371-0159
FAX(075)371-5803
info@bunkajihoh.co.jp
購読料(送料共)
1部300円 1ヵ月2,450円(半年または年間)

TOPICS
分断から和解へ……………6
佛光寺派宗務総長 退任へ…5
全寺院に一律5万円…………5
連載小説 運命の邂逅…………6

東本願寺御用達
日下念珠店
〒600-8174 京都市下京区東花園町下ル
電話 〇七五 三三三 六三三五
FAX 〇七五 三三三 五五五五
ご縁を喜び、お念仏とともに
ロゴマーク発表・4面

宗 土江宗務総長が就任 西山浄土宗 新内局発足、学園も新体制

西山浄土宗は1日、総本山光明寺大蔵で、土江賢祥宗務総長を筆頭とする新内局の認証式を営んだ。(写真)土江内局の顔触れが初めて明らかになった。同宗では9月28日以降、宗会議員の認証交付や、学



目下は開宗850年

新内局の認証式では、関係寺院や檀信徒、寺族らが見守る中、堀本賢順総本山光明寺法主から認証が授けられた。堀本法主は垂示で、四諦八正道の用語解説の「正見」について解説し、「宗門内でさまざまな意見があり、それぞれ自分が正しいと思っ

緊急事態宣言半年 私権の制限は問題

小原克博・同志社大学教授に聞く



新型コロナウイルスの感染拡大を受けて政府が初の緊急事態宣言(用語解説)を出してから、7日で半年を迎える。宣言は外出自粛要請などを通じ、感染抑止に一定の効果をもたらした半面、社会・経済活動を停滞させ、私権の制限を可能としたことに懸念を残した。宗教学界は、宣言を巡る一連の動きをどう受け止めるべきなのか。宗教はコロナ禍から現代人を救えるのか。キリスト教思想と宗教間対

東本願寺御用達
日下念珠店
〒600-8174 京都市下京区東花園町下ル
電話 〇七五 三三三 六三三五
FAX 〇七五 三三三 五五五五

文化時報は、人生の道しるべとして、時代の半歩先を読む宗教専門紙です。文化時報は、健全な経営を行い、この時代のふさわしい良質な紙面を作ります。文化時報は、従業員一人一人が高い専門性と広い視野を持ち、宗教界の発展に貢献します。

話を詳しい小原克博同志社大学教授(宗教学論)に聞いた。
小原教授は緊急事態宣言に対し、宗教界が同調圧力を強める動きに異を唱えるべきだったと指摘。先の大戦における戦争協力力の反省に基づいて、「私権の制限には慎重であるべきだ」と言、言っておくべきだったと述べた。
その上で、感染者への差別は14世紀に欧州でペストが流行したときと変わらぬ。宗教者が自分たちの問題として引き受けることが重要だと強調。教団は教えの根本に基づくメッセージを社会に発信し、「人が不条理とどう向き合うかを語るべきだ」と語った。
感染症対策より経済活動を優先する政策に関しては、不確定的な見解を示した。分散型社会の実現と自然保護を軸に、持続可能な社会を目指すべきだと主張。「世代を超えて記憶を継承できる宗教には、元の形とは違う社会を構想できる」と話し、宗教界にいつかの社会参画を促した。

インタビューに答える小原克博教授。宗教界にさまざまな提言を行った

作文コンクール開催

文化時報社は、小中学生と高校生を対象とした「第1回文化時報作文コンクール」を開催します。若い人たちに、神仏を敬う心と思いやりの精神を持ち、未来を力強く生きてほしいとの願いを込めて、文章力と表現力を磨いてもらう企画です。
テーマは「お坊さんと私」。4000字詰め原稿用紙2〜4枚程度で、手書きのものとします。最優秀作品賞には賞状とAmazonギフト券5千円分を贈呈します。
締め切りは11月30日。作品は弊社までお送りください。入賞者は2021年1月下旬ごろ、紙上にて発表し、作品は紙面に掲載されます。
募集要項の詳細は弊社ホームページをご覧ください。
https://bunkajihoh.co.jp/ 文化時報社



2面から続く

「コロナ禍で教団はますます弱体化しています。今後はどうなるでしょうか。」

「信徒数が減り、連動して財政基盤が弱体化しているのは共通する課題。とりわけ伝統仏教教団は、檀家制度に依存せずに収入を得る仕組みづくりを怠り、有効な手を打てずにいた。そこへコロナ禍が起き、お金の流れが停滞した。今までと同じやり方で存続しようとする、早晩行き詰まるだろう。」

「鎌倉新仏教の教えは、危機的な状況にいた中世の人々へ、染み入るように伝わっていった。ところが現代人が救いを求めていないのだとすると、宗教の出番はどこにあるのでしょうか。」

宗教の出番 不条理に向き合うこと

「現代人が救いを求めていないのだとすると、宗教の出番はどこにあるのでしょうか。」

「人間は一人一人が根本的な不条理にさらされている。科学は現代社会を隔々まで制御しているが、それ

「脆弱」という意味では、医療も宗教と変わらない。コロナ禍で1000万人以上が亡くなり、世界は医療の

「今回のコロナ禍によって、人の命も偶然にさらさ



「では同じことを語って、通じない。現代人は、救いのリアリティーが全く別物になっているの

「で、通じない。現代人は、彼岸的な意味での救いを求めているのではないのか」

「政府は感染症対策と経済活動の両立を目指しています。」

経済との両立 違う生き方を示せ

「戦後の日本社会の根本的な価値観は、物質的な繁栄を幸せと捉えることだ。もう十分なのに、まだ経済成長が必要だと言いつつ、成長するなら少々の犠牲が出てもやむを得ないという発想を持ち、格差が広がっても『努力が足りないからだ』と平気で切り捨てる。コロナ禍では、そういう

「成長神話は、戦後の日本人が共通して信じていた宗教のようなものだ。それを偽物の宗教だと指摘し、『どうわれから解放されるべきか』を問う必要がある。成長神話から解放できるか考えますか。」

「われわれが資本主義に取込まれてその一部となっていて世界を、外部に立って対象化する視点が必要だ。コロナ禍における教団のメッセージに話を戻せば、個人の心の在り方や気の持ちようを、訓話のように伝えるものが多い。それも大事だが、人間は自分の心だけで幸せになるわけではない。社会批評の要素を加えるべきだ。社会の仕組みを、時間をかけて変えていく必要がある。」

コロナ後の社会 元に戻すべきではない

「ポストコロナ」と言われるこれからの時代に、宗教は社会とどう向き合えばいいでしょうか。

「コロナ禍で経済的な危機に直面した人々が、自殺を選ぶのを防ぐことだ。生死の境をさまよう状況に追い込まれる人々にこそ、救いの手を差し伸べるべきだ。」

「理想の社会を考える上で、何を前提とすべきでしょうか。」

「コロナ禍で見てきたひずみに光を当て、元の社会に戻していいのか、と問うべきではないか。欲望で経済が回り、自然が破壊されても構わない、という持続性を欠いた社会ではなく、どういった社会にするか

「具体的に向き合うべき課題の一つは、自殺対策。コロナ禍で経済的な危機に直面した人々が、自殺を選ぶのを防ぐことだ。生死の境をさまよう状況に追い込まれる人々にこそ、救いの手を差し伸べるべきだ。」

「われわれはパンデミックとパンデミックの間、すなわち『インターパンデ

「そうした矛盾が、仏教を招いている可能性はありませんか。」

「教えの根本が一般の人々に理解されていないのではないかと。確かな物を増やせば増やすほど幸せになるというのが、資本主義の論理。われわれがその上に乗っかっている危うさを、宗教の視点から伝える必要がある。」



「巨額の公共投資で同じ構造を作り直すことは、パンデミックの抑止力にはならない。気候変動の要因になる事柄が増え、生物多様性は損なわれ、持続不可能な社会に向かってしまう」

「変えるべき点は少なくとも二つある。一つは分散型社会の実現。もう一つが自然保護だ。人間による森林破壊を前提とした消費活動に、厳しい目を向ける必要がある。快適な食生活や便利なITを支える食料資源と鉱物資源が、豊かな自然を犠牲にして成り立っていることを直視しなければならぬ。これは倫理的な問題であり、宗教界から言えることだと考える。」

「現代人は『自分が生きている間は何かを持ちたい』という思考を繰り返している。宗教界がそれを超えて何ができるかを問題提起すれば、元の形とは違う社会を構想できる。」

「資本主義社会で普通の生活を送っていると、目先のことがかえり、快樂だけを追求してしまう。一方で宗教は、儀式や聖典、教義を通じて、世代を超えて記憶を継承できる。蓄積された知恵を未来に転じ、先々まで考える力を与えてくれるポテンシャルがある。」